

トヨタ紡織滋賀の活動

しがのふるさと支え合いプロジェクト事例報告

vol.1

広大な敷地に白が基調のスタイリッシュな風貌の「トヨタ紡織滋賀株式会社」。トヨタ紡織株式会社(本社)・愛知県の子会社として2006年に設立。自動車のパーツなどの樹脂製品の生産、供給している。



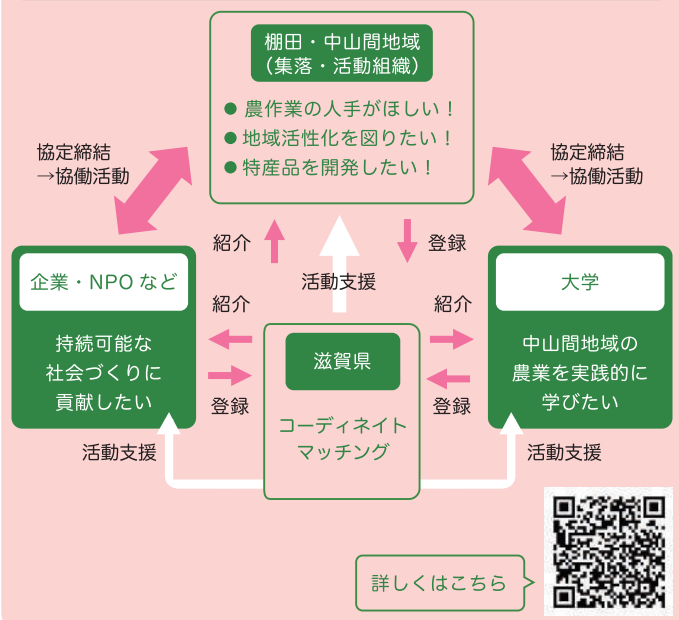
「トヨタ紡織滋賀株式会社」
経営管理室 人事総務グループ
グループ長 谷口 忍 氏

社会貢献企業のパイオニア

「企業として地域に貢献できることは何かないか」という思いをきっかけに、年間100を超えるボランティア活動を展開しているトヨタ紡織滋賀株式会社。まさに社会貢献企業のパイオニアとも言える企業文化を背景に、トヨタ紡織滋賀さんと山女原地区が出会ったのは今から3年ほど前。取り組み当初から旗振り役をしている谷口さんにお話を聞いた。「近くの地域で貢献できることを市内で探していたら、会社から車で30分くらいのところに山女原地区をたまたま見つけました。その際に棚田の支援を募っていたことを知り、寄付を始めたのがきっかけです。」また、寄付だけでなく、年3回自主的に手を挙げた社員を数名つれ、奉仕活動にあたっている。「山女原には社員の家族が住んでいたり、隣の集落に社員が住んでいたりと、縁を深く感じています。作業の内容は簡単なもので、草刈りや、ひまわりの種まき、1日1日拾いごすね。」



しがのふるさと支え合いプロジェクト

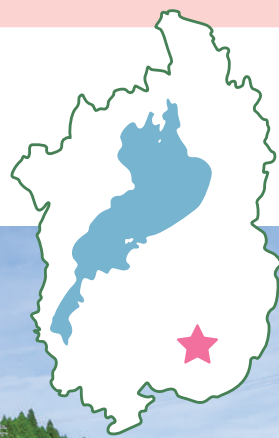


山女原との取り組みをきっかけに 更なる飛躍を

「山女原に行くと、暖かく迎えてくれ、いろんな話をしてくれるんです。農村のみなさんとの交流は楽しいですね。作業は大変ですが、終わった後、普段口にできないクルミ入りのお餅やおにぎり、地元でとれた食材を振舞ってくれるんです。クルミが本場に美味しいんですよ！また、H30からはしがのふるさと支え合いプロジェクトに参加し、事業を活用してお揃いの作業用ジャンパーを購入し、よりみなさんとの一体感ができたと思います。」と笑顔で語ってくれた。さらに、参加した社員さんの社会貢献意識がアップしているという話も聞かされた。今後の目標は、地域での困りごとを吸い上げ、ボランティア活動を通じて地域に貢献すること。その意識の高まりを社員に期待しています。また、こどもたちが働きたいと思う会社に成長していきたい」と語ってくれた。

あけびはら

山女原の紹介



三重との県境、
美しい棚田が広がる山女原地区

甲賀市土山町に位置する山女原地区は、鈴鹿山脈の山裾にある地域で、三重県に繋がる東海道の裏街道が集落内を通っている。山脈を越える「安楽越」という名の道は、豊臣秀吉が5万ほどの兵をつれて通ったという歴史も、集落の周りは田んぼで、棚田に囲まれたような地形をしている。



「山女原棚田ボランティア委員会」

代表 筒井 勇雄 氏

山女原棚田ボランティア委員会が進める「和グルミの里」

山女原の棚田を守るには、「山女原棚田ボランティア委員会」。

山女原の棚田は、代表の筒井さんをはじめとする「山女原棚田ボランティア委員会」の皆さんによって守られている。棚田ボランティア委員会が立ち上がったのは平成25年のこと。当時農業委員をされていた筒井さんがボランティア委員会を立ち上げた。ボランティア委員会は現在6人の地域役員と、外部も含めてボランティアが25名ほど。地域住民の2/3が参加している。「立ち上げ当初は棚田を維持するための草刈りボランティアでしたが、せっかくな草を刈ったのに何も植えないのはもったいない」と考えた筒井さんたち委員会のメンバーと宮農組合のメンバーは、委員会を立ち上げた約2年後からクルミを植え始めた。山女原には「オニグルミ」という和グルミの木が自生していて、一説によると樹齢が1000年近いと言われているそうだ。「和グルミの里」として産地化を目指しており、現在は65a(アール)ほどの棚田で栽培している。「グルミは殻が硬く、獣害対策にもいいんです。しかも、落ちるまで待つて収穫するから誰でも栽培できるんですよ。」そのグルミは手伝ってくれた方へのお昼ご飯やお土産としても振る舞うようになり、今ではクルミ餅やクルミおにぎりなど、様々な食べ方のアイデアが考案されている。おすそ分けでいただいたクルミは工芸味がなく、筒井さんの人柄を思わせる優しい味だった。

ボランティアの力を借りて
更なる飛躍を

クルミだけではない。ボランティア委員会ではひまわりによる耕作放棄地の再生も行っている。70a(アール)のひまわりは、トヨタ紡織滋賀さんと一緒に種を撒き、毎年汗を流している。その他、トヨタ紡織滋賀さんは集落内にある「カブトムシの里」の運営も手伝ってくれていて、住民と一緒に山女原の棚田保全を行なっている。集落外の力をうまく借りるのが棚田保全の秘訣と言ったところだろうか。今後はしがのふるさと支え合いプロジェクトの補助事業を活用しながら、クルミを使った商品化や、地域にあるお茶などで新しい取り組みを進めていきたい。」と話す筒井さんは楽しそうだった。



お問い合わせ先

滋賀県農政水産部農村振興課 地域資源活用推進室

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号
TEL: 077-528-3963

詳しくはこちら

